

第46回 国際福祉機器展H.C.R.2019 ～出展報告～

世界最先端の福祉機器展が出演された展示会「国際福祉機器展H.C.R.2019」(9月25日(水)～27日(金)の3日間)に出展いたしました。世界14か国1地域から438社(国内379社、海外59社)が出展、3日間で10万人を超える来場者を迎えるなど、世の中の関心の高さが理解できます。



東京ビッグサイトにて開催



国内外問わず3日間で10万人を超える来場者

デベロブースではさらに改良を重ねた入浴車OB-3F5D(トヨタ タウンエース)を展示しました。最大5名の乗車を実現することで、たくさんの荷物も積載可能になりますし、新人研修の際でもスタッフ3名以外の乗車が可能になります。コンパクトでありながら充実した仕様と、その扱いやすさに驚きの声をいただきました。



デベロブース



入浴車OB-3F5D(T) (ベース車両:トヨタ タウンエース)



大好評「バスボードD」・「手持ちタンカ」、施設向け簡易浴槽「手FL-8M」

入浴車の他にも、移乗補助具「バスボードD」と「手持ちタンカ」を展示。実際にご使用いただき、より安全な移乗方法をご体験いただきました。

また、医療・介護施設で大活躍の「簡易浴槽FL-8M」を出展。訪問入浴で培ったノウハウを簡易浴槽に取り入れた浴槽は、浴室の改修工事等は不要なことからも注目をいただきました。「医療機器を装着されている方」に、「感染症の方」といった、個別の対応を要する場合にも最適との声をいただきました。



「バスボードD」と「手持ちタンカ」



簡易浴槽「FL-8M」

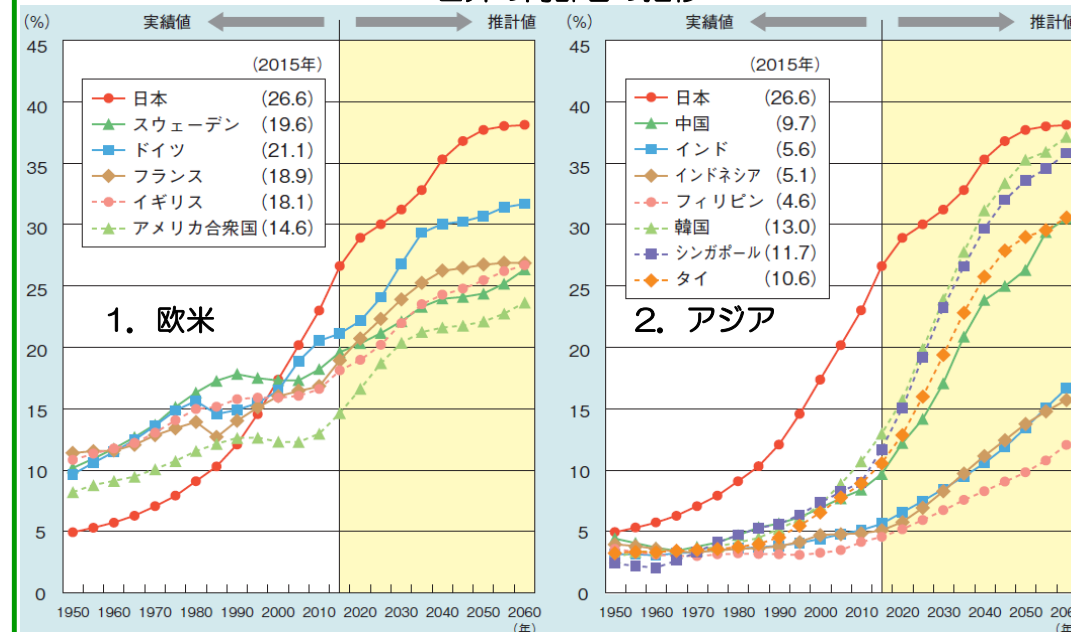
人口減少・高齢者のさらなる高齢化が加速する中、産業の種類を問わず「生産性の向上」や「効率化」が必須の時代となりました。入浴介護においても、なによりも安全に、そして安心して暮らせるように、その役目を守りつつ、改善・開発を重ねていくことを展示会にてピーアールさせていただきました。

次回「第47回 国際福祉機器展H.C.R.2020」は、2020年10月21日(水)～23日(金)の3日間、東京ビッグサイトにて開催予定です。

日本の高齢化率、世界最高28.4% 推計3588万人

総務省が9月16日の敬老の日に合わせて発表した人口推計で、65歳以上の高齢者の人口(9月15日現在)が推計で前年比322万人増の3,588万人となり、総人口に占める割合が28.4%にのぼることがわかりました。これは、いずれも過去最高となります。発表された資料によると、男女別の高齢者数は、女性が2,028万人(女性人口の31.3%)、男性は1,560万人(男性人口の25.4%)でした。

世界の高齢者の推移



資料:平成30年度高齢化の状況及び高齢社会対策の実施状況(内閣府)

先進諸国の高齢化率を比較してみると、我が国は1980年代までは下位、90年代にはほぼ中位でしたが、平成17(2005)年には最も高い水準となり世界で最高となりました。今後の推計を見ると、これまで高齢化が進行してきた先進地域はもとより、開発途上地域においても、高齢化が急速に進展すると見込まれています。このことから、

古今東西

その6 江戸っ子は温湯好き

江戸っ子はあつ湯が好きだったと言われています。そもそも「江戸っ子」という言葉が使われ始めたのは、江戸時代中期頃のことです。都があった京都や大阪に対する対抗意識から生まれたものであり、江戸っ子は見栄を張るのを良しとしてきました。風呂が熱くても、「こんなぬる湯」などと言って、何食わぬ顔をしてさっとはいるのが、江戸の粋、いなせだと言われたそうです。

明治時代に入ると、外国人から日本の銭湯の湯温が高すぎることを指摘され、東京府からも「熱すぎる湯には入るべきではない」との指導が始まります。とはいえ、長年の習慣はなかなか変わらなかったようです。当時の人々の考え方や生活の様子を伺い知るこの出来る習慣です。入浴の方法もその時代背景で変わっていくを感じますが、長湯をするならぬるめのお湯で半身浴、忘れちゃいけない水分補給といった基本を忘れずに楽しみましょう。



お風呂にまつわるちょっとした小話
「お風呂古今東西」は、
お風呂infoにて連載中。http://o-fu-ro.info/



訪問入浴介護のお申込み・お問い合わせは

本紙は、デベログループHP「お風呂info」(http://o-fu-ro.info/)にて閲覧可能です。プリントアウトして訪問入浴介護の普及啓発にご活用ください。